No. 440

大学受験英語 超絶チート技100【共テ・私大・国公立の裏ワザ総まとめ】

知っているだけで点が上がる技を分野別に100。どれも本文と文法に根拠を取りにいく正攻法で、誤答の作られ方と採点の急所を突く。

Web版はこちら

ここだけ3行

1 正解は本文の言い換え、ダミーは本文の字面

2 空所は直後を見よ。後ろが答えを決める

3 記述は要素点。数えて全部入れる

チートの正体

ここに「選択肢の長さで選べ」のような根拠のない技は1つもない。出題者は**正解を本文の言い換えで、誤答を本文の語のすり替えで作る**ことが多い。その作り方を知って、根拠に最短でたどり着く。それが本物のチートだ。

◆ ① 共テリーディング 12技 12

設定文と指示文を読み落とす人から崩れる。

☐ 1 You are…の1行が設問

各大問冒頭の設定文(誰が・何のために読むか)を先に読む。拾うべき情報の観点がそこで決まる。

☐ 2 appearedかhappenedか

並べ替えは指示文の動詞を確認。appeared＝書かれた順、happened＝起きた順。had p.p. の回想で時間が戻る。

☐ 3 後から来た文書が勝つ

案内→メール→返信と資料が続く問題は、後の資料の変更・例外の1行が決め手。最初の案内だけで解かない。

☐ 4 意見問題で事実を選ぶな

opinion を問う設問では、本文と一致していても数字・出来事の選択肢は誤り。評価・判断の語(best, should)が目印。

☐ 5 Bothは片方だけを切る

「2人とも述べている」問いは、片方しか言っていない内容が誤答の定番。両者の発言を別々に確かめる。

☐ 6 ポイントは引き算

割合の差は percentage points。80%→85%は5ポイント増で、5%増ではない。増減を問う選択肢は単位を確認。

> Support rose from 80% to 85%.
> → up 5 percentage points

☐ 7 数字表現は図の数に直す

more than three quarters＝75%超、doubled＝2倍、a third≒33%。数値に直してから図と照合する。

☐ 8 完答問題を最後に再点検

並べ替え・2つ選ぶ・組み合わせは1つのミスでその問題の点が全部消える。見直しはまずここから。

☐ 9 2つ選ぶは1つずつ判定

各選択肢を単独で○か×か決める。2つ目を数合わせで選ばない。順不同の指示があるかも確認。

☐ 10 推敲はコメントが地図

下書き＋コメント型は、コメントの要求(例を足す・つなぎを直す)を先に読み、下線の前後2文で判断する。

☐ 11 スライドの空欄は本文順

プレゼン資料の空欄はほぼ本文の順に並ぶ。該当段落を読んだらその場で埋め、全体を問う設問は最後に。

☐ 12 立場に合う理由だけ拾う

意見文の構成問題は、示された立場を支える理由だけを選ぶ。反対側の理由も本文に書いてあるのが罠。

◆ ② 共テリスニング 10技 10

勝負は放送の前に決まる。聞く的を決めてから聞く。

☐ 1 指示文の読み上げ＝先読み

各大問冒頭の日本語の指示文は冊子に印刷済み。形式を知っていれば、読み上げ中は次の選択肢を先読みする。

☐ 2 選択肢は違う所だけ読む

4つに共通する語は飛ばし、違う部分(人・時・数・否定の有無)に線。そこが聞く的になる。

☐ 3 2回読みの2回目は次へ

2回読みの問題は1回目で仮決め。決まれば2回目は根拠の確認だけにして、目を次の問題へ移す。

☐ 4 絵は2つの軸で切る

4枚を「帽子あり・なし×座る・立つ」のように2軸で分ける。1つ目の情報で2枚、2つ目で1枚に絞れる。

☐ 5 動作の前・中・後は時制

同じ動作の絵が並んだら is about to(直前)／is -ing(途中)／has just p.p.(直後)を聞き分ける。

☐ 6 聞こえた単語は罠

音声の語がそのまま入った選択肢は疑う。正解は否定→肯定などの言い換えで書かれることが多い。

> I'll never forget your kindness.
> → 正解は I will always remember ～ の形

☐ 7 前半の案は消去用

最初に出た案は but／actually／now の後でひっくり返されやすい。最後の発言まで答えを確定しない。

☐ 8 数字は答えでなく材料

聞こえた数字を即マークしない。割引・差・合計・「それより1時間早く」を計算してから選ぶ。

☐ 9 但し書きで×がつく

条件×候補の○×表を作る。長所の後の The only problem is／Just remember で×。全部○の1つが正解。

☐ 10 人数は最後に数え直す

「会話の終わりの時点で賛成は何人か」は、途中で意見を変えた人を数え直す。名前の頭文字に○×△。

◆ ③ 長文読解 12技 12

照合は語ではなく意味で。誰が・どの強さで・どの向きに。

☐ 1 butの後ろが本音

But／However の後が主張になりやすい。Of course などの譲歩や Many people think の一般論はその前振り。

☐ **2 not A but BはBが主張**
B がその文で肯定・強調される側(誰の意見かは文脈で確認)。instead・rather も同じ。not only A but also B は両方肯定。

> Success depends not on talent but on effort.
> → 主張は effort の側

☐ **3 字面一致を疑え**
本文と同じ語が並ぶ選択肢ほど中身のすり替えを疑う。正解は品詞の転換・反意語の否定・上位語で書き直される。

☐ **4 5点照合で切る**
選択肢を主語・強さ(all／only)・因果の向き・時制・条件の5点で本文と照合。1点でもずれたら誤り。

☐ **5 相関を因果にしたら×**
本文が linked to／associated with(関係がある)なのに、選択肢が cause(原因になる)なら言い過ぎ。

> 本文 Exercise is linked to better moods.
> → Exercise causes better moods. は誤り

☐ **6 result in／fromの矢印**
A result in B は A→B、A result from B は B→A。因果は余白に矢印で書き、選択肢の向きと比べる。

> The delay resulted from the snow.
> → 雪が原因で遅れた(雪→遅れ)

☐ **7 推論は一歩まで**
most likely／infer の正解は本文の根拠から無理なく言える所まで。二歩先の決めつけと常識だけの選択肢は切る。

☐ **8 設問は本文の順**
設問の多くは本文の順に並ぶ。段落を読み終えたら対応する設問をその場で解き、根拠探しの往復を減らす。

☐ **9 1文目と最終文で骨組み**
時間がない時は各段落の1文目と最終文だけで要旨をつかむ。In short／Thus の文は主旨問題の答えの候補。

☐ **10 具体例は加速せよ**
For example の後は主張の確認。分かったら速度を上げ、例の直前の1文(主張)に線を引いておく。

☐ **11 未知語は品詞と＋－**
知らない語は品詞と良し悪しだけ決めて進む。直後の or／that is／ダッシュに言い換えがあることも多い。

☐ **12 文挿入は指示語と冠詞**
挿入文の this／these／the＋名詞／also／however が、直前に何があるべきかを決める。そこから位置を逆算。

◆ ④ 文法4択・正誤・整序 14技 14

「なんとなく」で選ばない。形を根拠に瞬殺する。

☐ **1 選択肢から単元を読む**
4択は選択肢を先に見る。動詞の形違いなら時制・態、品詞違いなら品詞と、問われている単元を決めてから解く。

☐ **2 主語と動詞の間は( )**
正誤は主語と動詞の間の前置詞句・関係詞節を( )で消し、中心の名詞と動詞の数を合わせる。

☐ **3 時・条件の節は現在形**
when／if／until の副詞節は未来でも現在形。「～かどうか」の if 節や名詞節の when なら will を使える。

> I'll call you when he arrives. / I don't know if he will come.
> 副詞節は現在形／名詞節は will

☐ **4 過去の目印に完了なし**
ago／yesterday／last ～／「いつ」を問う When ～? と現在完了は普通いっしょに使えない。since＋過去の起点は完了の目印。

☐ **5 自動詞は受け身にならない**
happen／occur／appear／belong／consist は受動態にならない。「起こされた」と訳したくなる所が罠。

☐ **6 関係詞は後ろで決める**
後ろが名詞の欠けた文なら関係代名詞、欠けのない文なら関係副詞か前置詞＋which。先行詞だけで決めない。

> This is the town where I was born. / This is the town which I visited.
> 後ろが完全→where／目的語が欠ける→which

☐ **7 後ろがSVか名詞か**
空所の後ろが S＋V なら接続詞(although／while)、名詞なら前置詞(despite／during)。意味でなく形で選ぶ。

> Despite the rain, we went out. / Although it rained, we went out.
> 雨にもかかわらず出かけた

☐ **8 比べる物をそろえる**
比較は同じ種類どうし。名詞の反復は that／those で受ける。「東京の人口」と「大阪」を比べたら誤り。

> The population of Tokyo is larger than that of Osaka.
> 東京の人口は大阪の人口より多い

☐ **9 仮定法は結果の時で決める**
if 節が had p.p. でも、結果が過去なら would have p.p.、今の結果なら would＋原形(混合仮定法)。now は目印の1つ。

☐ **10 提案・要求のthatは原形**
提案・要求の suggest／demand／It is necessary that の後は(should＋)原形。※「示唆する」の suggest は普通の時制。

☐ **11 並べる形をそろえる**
and／or／both A and B、than／as で同じ役割の語句を並べる時は同じ形に。-ing と to do の混在が定番の誤り。

☐ **12 整序は動詞の数－1**
述語動詞を先に決める。動詞が2つならつなぐ語が1つ。語群に無ければ関係詞・接続詞 that の省略を疑う。

☐ **13 語群が仕掛けを自白する**
it＋to／that→形式主語・強調構文、had／were／should がありif が無い→倒置の仮定法、否定語→倒置。

☐ **14 誤りなしは全下線に理由**
NO ERROR は全下線の正しい理由を言えた時だけ選ぶ。倒置・仮定法現在など見慣れない形＝誤りではない。

◆ ⑤ 語彙・熟語・語法 10技 10

意味より形と相手。語法問題は型で判定する。

☐ **1 動詞は後ろの型で解く**
語法問題は意味より後ろの形。provide A with B／prevent A from -ing などの型で判定する。

☐ **2 前置詞から動詞を逆算**
熟語の空所は後ろの前置詞が決め手。depend on／consist of／result in のように前置詞から動詞を絞る。

☐ **3 下線語は代入して決めろ**
語の意味問題は辞書の第1義でなく文脈での意味。選択肢を下線に入れ、前後の文と通るかで決める。

☐ **4 易しい語の別の顔**
入試は易しい語の第2の意味を狙う。address(取り組む)、run(経営する)、fine(罰金)、figure(数字・人物)。

☐ **5 伝えるtellは人、sayは中身**

伝える意味では tell＋人(tell him that)、say＋内容(say that)。tell the truth／a story は定番の例外。

☐ **6 robは人、stealは物**

rob 人 of 物(目的語は人)、steal 物 from 人(目的語は物)。被害の受け身は I had my bag stolen.

> They robbed him of his wallet. / They stole his wallet.
> 彼から財布を奪った／彼の財布を盗んだ

☐ **7 自他は目的語で決める**

lie-lay-lain(横たわる)／lay-laid-laid(置く)、rise(自)／raise(他)。lay が2役あるのが罠。

☐ **8 語尾違いは対で覚える**

sensible(分別のある)／sensitive(敏感な)、economic(経済の)／economical(節約になる)。

☐ **9 不可算名詞にaもsもなし**

information／advice／furniture／news は a も s も付かず、many・few も不可。数えるなら a piece of。

☐ **10 「客」「料金」は相手で**

客：guest(招待)・customer(店)・client(依頼人)・passenger(乗客)。料金：fare(運賃)・fee・fine(罰金)。

◆ ⑥ 会話文 8技 8

会話は「問い→答え」のペア。片方が空所なら、もう片方が決める。

☐ **1 答えは直後のセリフに**

空所より先に次の発言を読む。Yes/No か、具体的な情報か、But か。そこから空所のセリフの種類が決まる。

☐ **2 答えの形から疑問を絞る**

Twice a week. なら How often、For three years. なら How long が典型。答えの形で候補を絞り、文脈で決める。

☐ **3 Do you mind?にNoで許可**

「嫌ですか」と聞いている。許可は Not at all／Of course not／No, go ahead。Sure なら go ahead を添える。

> A: Do you mind if I sit here? B: Not at all.
> どうぞ(気にしません)

☐ **4 否定疑問は事実で答える**

Yes/No は質問の形でなく事実の肯否で決まる。好きなら Yes, I do. 好きでないなら No, I don't. と答える。

> A: Don't you like coffee? B: No, I don't.
> はい、好きではありません

☐ **5 So／Neitherは前文に合わせる**

肯定には So、否定には Neither＋前文の動詞に合う be／助動詞／do＋主語。So am I.／Neither did I.

☐ **6 直訳で合う選択肢を疑え**

You can say that again.(全くその通り)のように慣用表現は字面と意味がずれる。直訳の一致で選ばない。

☐ **7 誰のセリフかで消す**

I'm just looking. は客、I'll put you through. は電話を取り次ぐ側。言う立場が合わない選択肢は消える。

☐ **8 最後の2択は前後に通す**

残った2つを空所に入れ、前のセリフと後ろのセリフの両方につながるか読む。片方としか合わない方を消す。

◆ ⑦ 和訳・説明・要約 10技 10

採点者が見るのは「構造が取れているか」と「要素がそろっているか」。

☐ **1 和訳は構造を見せる**

採点者は構文を取れているかを見る。SV と修飾の範囲が分かる訳を先に作り、自然な日本語は最後に整える。

☐ **2 名詞構文は文に戻す**

名詞を動詞に戻し、所有格・of が意味上の主語か目的語かを動詞の意味から決める。「～したことで」とつなぐと自然。

> The rapid spread of smartphones has changed our lives.
> スマホが急速に普及したことで、私たちの生活は変わった

☐ **3 無生物主語は人を主語に**

物が主語で人が目的語なら、主語を「～すれば・～で」と副詞的に訳し、人を主語にする。

> This road will take you to the station.
> この道を行けば駅に着く

☐ **4 部分否定を消すな**

not all は「すべてが～とは限らない」、not always は「いつも～とは限らない」。全体否定に訳すと減点。

☐ **5 助動詞・完了を訳に出す**

may・must・should have p.p.・現在完了の意味は訳に必ず入れる。1語ずつ訳に入ったか指で確かめる。

☐ **6 説明問題は和訳で終えない**

「どういうことか」は指示語と比喩をほどいて中身を書く。下線部の和訳だけでは点が伸びにくい。

☐ **7 文末は設問に合わせる**

「なぜか」→～から。「どういうことか」→～ということ。「何を指すか」→名詞で終える。ずれは減点の的。

☐ **8 要素を数えてから書く**

記述は要素ごとの部分点が多い。入れる要素を先に箇条書きし、字数の8割以上を目安に全部入れる。

☐ **9 対比は両側を書く**

not A but B・unlike A・instead of A があれば、A と B の両方を答えに入れる。片側だけでは要素不足。

☐ **10 要約は例と数字を捨てる**

各段落の主題文を拾い、具体例・数字・引用を削って論理語でつなぐ。英語の要約は本文の語を言い換えて書く。

◆ ⑧ 英作文 12技 12

高得点は「難しい英語」ではなく「減点されない答案」から。

☐ **1 1文目で立場を1つに**

問いの語を使って1文目で立場を言い切る。両論併記は「問いに答えていない」と見られやすい。

☐ **2 理由に「なぜ？」をもう一段**

valuable や good は主張の言い換えで理由にならない。「なぜ価値があるのか」まで書いて具体化する。

☐ **3 結論で撤回しない**

最後の「場合による」は主張の撤回。範囲を絞りたい時は as long as ～ で立場を保ったまま条件を足す。

> Schools should allow smartphones as long as students follow clear rules.
> 明確なルールを守る限り、学校はスマホを認めるべきだ

☐ **4 書く前に和文和訳**

和文英訳は日本語を「英語で言える日本語」に直してから書く。「～には…がある」は have で書ける。

> This town has two libraries.
> この町には図書館が2つある

☐ **5 書ける英語に言い換える**

自信のない難語・難構文は避け、確実に書ける語に言い換える。誤りのない平易な英文が減点を防ぐ。

☐ **6 総称は無冠詞の複数形**

「スマホは便利だ」は Smartphones are useful.。数えられる名詞を冠詞なしの単数で使うのは誤り。

☐ **7 Because単独の文はゼロ**

Because ～. だけの文は文の断片。主節とつなげる。For example, の後も完全な文で書く。

☐ **8 howeverは接続詞じゃない**

however は副詞。2文をカンマだけでつなぐのは誤り。前をピリオドかセミコロンで切るか、文中に挿入する。

> It is expensive. However, it is worth the money.
> 高い。しかし、その価値はある

☐ **9 答案は書き言葉で**

don't→do not、kids→children、文頭の So→Therefore。短縮形・口語は誤りでなくても印象を下げる。

☐ **10 recentlyで今を語らない**

recently は過去形・現在完了（変化なら進行形も）と使う。今の習慣は these days／nowadays＋現在形で書く。

☐ **11 極論と作り数字を避ける**

everyone／never の言い切りは反例1つで崩れる。many／may で守る。出典のない数字は作り話に見える。

☐ **12 語数指定は条件**

指定範囲の外は減点されうる。下限ぴったりでなく数語多めに。1行の語数×行数でざっと数える。

◆ ⑨ 本番・マーク・時間 6技 6

☐ **1 時刻で管理する**

開始直後に各大問の終了予定時刻を冊子に書く。「残り何分」ではなく「何時何分」で管理すると延びない。

☐ **2 マークは大問ごと**

大問を終えるたびに塗る。最後の一括転記は時間切れと番号ずれで大量失点の危険がある。

☐ **3 2分で決まらなければ撤退**

2分考えて決まらない問題は、有力な方を仮マークして印をつけ次へ。戻るのは見直しの時間。

☐ **4 聞き逃しは引きずらない**

リスニングで聞き逃したら即仮マークして次の先読みへ。前の問題を考える間に次を落とすのが連鎖失点の元。

☐ **5 変えるのは根拠がある時**

見直しで新しい根拠を見つけたら直す。答えの変更は誤→正が多いという研究がある（Kruger ほか 2005）。

☐ **6 見直しは3か所だけ**

①マークのずれ ②完答問題 ③迷った印の問題の順に見る。全部を解き直そうとしない。

◆ ⑩ 暗記・勉強法 6技 6

☐ **1 読み返すより思い出す**

覚えたら見ずに思い出すテストをする。読み返しより長く記憶に残る（テスト効果：Roediger & Karpicke 2006）。

☐ **2 復習は間をあける**

同じ日に10回より、翌日・数日後・1週間後に分けて復習。分散学習の効果は多くの研究で確かめられている。

☐ **3 単元を混ぜて解く**

文法は単元別の練習の後、単元を混ぜた問題で解く。本番の問題には単元名が書いていない。

☐ **4 ×に型の名前をつける**

間違えた問題に「言い過ぎ」「因果の逆転」など誤答の型名を書く。型で覚えると次に同じ罠で止まれる。

☐ **5 自分でダミーを作る**

解いた長文の正解の選択肢を、all にする・因果を逆にするなどで書き換える。作る側に回ると罠が透ける。

☐ **6 聞けない所は口で確かめる**

解き終えた音声はスクリプトを見て音読し、次に見ずにシャドーイング。言えない所が聞き取れなかった所の候補だ。

使い方

1日10個、10日で1周。技名だけを見て「いつ・何を見て・どうする」を言えるか試し、言えない技に印をつける。試験の前日は**技名だけ100個を流し読み**して会場へ。

参考資料 Roediger, H. L., & Karpicke, J. D. (2006). Test-enhanced learning. Psychological Science, 17(3), 249–255.／Kruger, J., Wirtz, D., & Miller, D. T. (2005). Counterfactual thinking and the first instinct fallacy. Journal of Personality and Social Psychology, 88(5), 725–735.

もっと無料で学ぶなら
原田英語.com
究極の英単語帳（PDF印刷）・共テ単 キョウテタン・共通テスト満点チートシート・英文法大全・英作文超絶採点くん・時事英語ナビ…
受験に役立つ無料の英語アプリと、約2,800本の記事。
原田英語.com
ほかのチートシート（全445本・無料）